



4月にむけた助走のこと。

みなさん、今年に入って1ヶ月が終わろうとしています。つい、この間「あけましておめでとう」と挨拶を交わしていたのに。あっという間にもう2月ですよ。早いと思いませんか？こうして、月日は過ぎ去っていつてしまうんですね（遠い目）。だからこそ、時間が過ぎていくことをしっかりと意識しなければならないわけです。時間は万人に平等です（遠い目してる場合ではない）。

冬休み明け集会でみなさんにお話ししましたが「冬休み明けは4月までの助走」です。この助走期間が、なんとなく過ぎ去ってしまったら、、、。

1 年 生

「あなたはどのようにその進路希望なのか説明できますか？」

1年生のみなさんは、入学してもうすぐ1年たつわけです。卒業後のことを具体的に考えられるようになったのでしょうか？進路活動はstepbystepです。この1年間で悩んでおくこと、考えておくことを先送りせずに2学年に進級しましょう。そのためにできることはなんでしょう？

2 年 生

「自分の進路活動のスケジュールをたてていますか？何月に何をするか把握していますか？」

もうすぐ最終学年です。3年生になれば、それぞれが進路実現に向けた活動を本格化させなければなりません。「進路に迷う」段階を超え、「進路先を選ぶ」「挑戦する先を決める」ことから4月がスタートです。選ぶ、決めるための準備は大丈夫ですか。情報を検討するために、それぞれが努力する必要があります。ぼんやりと4月を迎えることのないように。

3 年 生

「新生活のどんなことが不安ですか？それを解消するにはどうすればいいですか？」

もうすぐ卒業ですね。卒業は文字通りスタートです。スタートしてすぐに躓かないように、しっかりと助走（準備）をすすめてみましょう。新生活に必要なものはなんでしょう？必要な心構えとはどのようなことでしょうか？明日から家庭学習期間。それぞれひとりひとりが「これでだいじょうぶ」と思える助走ができるといいですね。

「自立」にむけて考えておきたいこと。

進路実現とは、将来「自立」という意味を含んでいます。自分が10年後、どうやって自立しているのか考えるのが進路活動とも言えます。この「自立」ということについて。

「自立は依存先を増やすこと」という言葉を紹介します。脳性麻痺の障がいを持ちながら医師として活躍、当事者研究分野の第一人者である熊谷晋一郎准教授の言葉です。「自立」というと「依存」の反対語であり、「ひとり立ち」することだ、というふうに思いますよね。私もそう思っていました。しかし、熊谷先生はそうではない、と言うのです。

誰でも生まれてから青年になるまで、親に依存して生きていきます。そして、そこから**「ひとり立ち」するのではなく、親だけに依存した状態から、徐々に社会の中に依存先を増やしていく**こと、それこそが自立だ、と言います。これは障がい者に限らず、どんな人でも同じだと。

考えてみれば、私たちは様々な人間関係や社会に依存して生きています。家族はもちろん友人関係、そして公共の交通機関や医療サービスなどのインフラや環境。いろいろなものに依存しています。けして、ひとりで生きていくわけではありません。

ひとり立ちとは「依存しない」ことではなく、社会の中の様々な人間関係などに依存を広げていくこと。

就職して「会社に依存する自分」が「経済的自立を実現する」ことで「自立」した、と考えしまいがち。そして、依存先の会社が倒産する、もしくはリストラされてしまう、という場合、「依存先」がなくなり、たちまち「自立していない自分」に陥ってしまいます。

ご存知のように、昨年から続くコロナ禍で中小企業が被っている経済的な影響ははかりしれません。倒産・廃業を余儀なくされ、職を失う人も。日本は99%が中小企業の国です。こうした影響は他人事ではない、身近な問題と考えてよいと思います。

「自立とは依存先を増やすこと」～社会の中に自分の依存先をたくさん作る努力をすることが、これからの社会を生き抜くためには必要な気がします。

どんな会社に勤め、そしてどんな人間関係を持つのか。なにかあったら助け合える、そうした依存先を持ちながら、生きていく。親にもまだまだ依存するし、友達関係にももちろん依存します。これからの新しい人間関係にも依存していくだろうし、それが仕事関係だけに限ることもない。そんな風に依存先を増やししながら、支え合いながら生きていけるといいですね。

